

風邪のはやりの季節は、体温計が二年中で一番活躍する。だが、この体温計も最近では、おなじみの水銀式かわり、体温が数字で出る電子体温計がめざましい普及ぶり。もっともこの電子体温計には前年から「水銀に比べ体温が高めに読める」云々の誤差が指摘されている。測るたびに変動が大きい」との指摘もある。「こんなに体温を気にするのは日本人らしい」とも、気にする体温計、測り方なども含めまとめてみた。

現在出回っている体温計は、電子式が二種類に分けられる。一つは水銀式と合わせて三タイプで、水銀式と合わせて三タイプ。水銀式は構造そのものは簡単で、温度精度は安定しているが、ガラス製で割れやすい、読み取りにくいなどの欠点がある。

少し高めに出る?

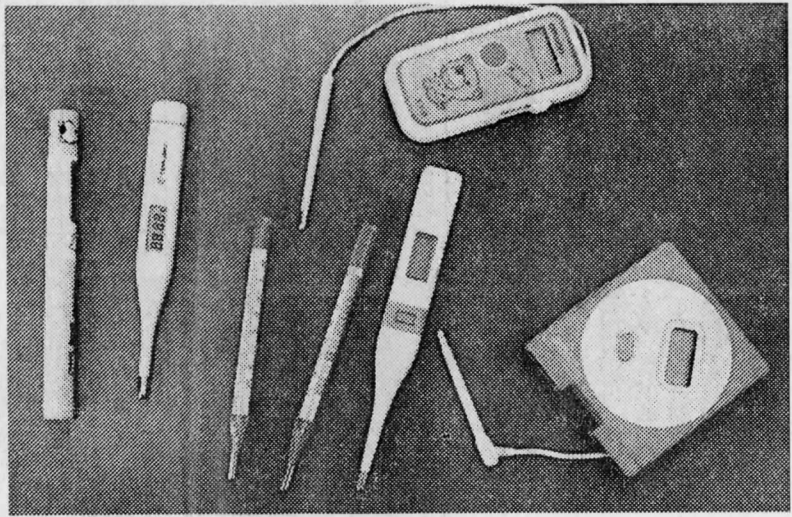
電子体温計

「予測式」では誤差伴う

電子式は、サニミスタと呼ばれる素子を温度感知器に利用し、体温を測定する。プラスチック製で壊れにくく、読み取りが簡単。五十八年ごろから家庭に普及した。実測式と呼ばれる、基本的には水銀と同じく測っている部位の今の温度を示す。

1分で推定値

続いて登場したのが予測式で、一分間程度で体温を測る。一がうたい文句。測り始めるから安定した体温「平衡値」になるまでさまざまな温度変化があるが、予測式は最初の温度上昇カーブから「平衡値」を推測。一分程度で「平衡値」を出す。「体温が高めに出る」などの声はほとんどが、この予測式を使っているケースだとい



売られている様々な体温計。なじみのタイプのほか、分離型の電子体温計も

実用上は十分

二度、最低三六・九度で平均三七・〇度で、水銀に比べて〇・三度高かった。

しよせんは目安 気にし過ぎない

西山さんは「時代は電子体温計に移っているし、メットもある。しかし早く測れると買っている消費者が、予測方式のものをどだけ理解しているのだろうか」と話す。
「平衡値」に達するのは、日本人の測り方の主流である。測る時に気を付けることとして、メーカーや医師は次のような助言をしている。測る前は安静にし、いつも一定の部位で測る。わきの下の場合は中央部のくぼんだ所に体温計の先端を下の方から当てる。汗をかいてる時はふきとる。また予測式では、冷えたままの体温計をすぐに使わない、測定時はきちりとわきの下や口を閉めておくとより測定条件に気を付ける。

もともと、国立大学の生理学の研究者は「あまり体温に神経質になる必要はない。朝は低く、だんだん上がり、人によっては〇・五・一度の差がある。それを踏まえ健康な時に正しい測定で自分や子どもの平熱を知ってほしい。体温は顔色や息づかいなどとともに、体の具合をみる一つの目安と考えてほしい」と話している。

実験データをそれぞれの会社に送って説明を求めた。最初使った予測式の社から「誤差はプラスマイナス〇・二度。これを自分の「正しい温度」で、社での測定結果と一致。予測式で測ると『高く出る』と思われ、上の問題はない」との回答。もう一方の社からも「同じ誤差は実用上十分としているもの、短時間での予測にはやはり「限界」がある。そして微熱の測定など厳密な検温が必要な場合は、検温時間を延長することもできる」と回答している。

念願の句集の思い出を添え

ができた。夫がパリで何回も調べた。訂正の箇所が、さるの書房から印刷、製本をすく、完了した「二百句集」である。俳句を始め、四年たらずの私、句集作りなど、おぼろげな思いが、句集が小さく、本を押し、足踏を踏む。思い直してまた頼み、二週間がかりでB判、四十六、表紙と本らしくな。手書きの題字を張って六十部が完成。思ったよりいい出来上がり。

（神戸市 尾路）

日本語併記の標識に反対論

★オーストラリア
観光ルートや街路の標識に日本語を併記するメルボルン観光局案が、退役軍人連盟（RSL）から批判されている。同連盟が、急増している日本人観光客のために計画しているもので、RSLの支部長は「日本語併記は美観を損なう」と手厳し。

しかし、連邦観光局長は「標識に限らず、サービス面で、訪問客の要望にたいし、日本人は職業に土産を持ち帰る機会が多くなり、関係が不満足なことから、満足な表情。式記念にあき出来上がった。

（神戸市）

家庭

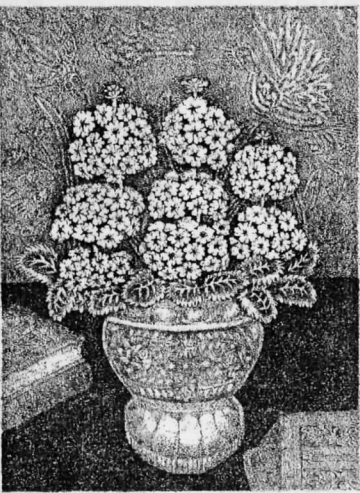
「オレたちには、もう原発はいらない！」
私はそのコピーを見て、なぜか憤りを覚えた。原発には、その雑誌のうたい文句にある。そして、はじめて原発を考えたので、核とか原発とか人種差別問題とか言った大命題をしゃべるのは性に合わない。それに状況からすると原発反対の態度をとる通俗的良識を雑誌は求めているのではないかと、負担もあっていったんは断った。

原発に思う

藤原 新也

丸亀日記

しかしその後、受けた。新聞広告に載ったある雑誌の大きな活字が目につくほどに、週刊誌の中にも売れている雑誌の広告があり、次のような文句がデカデカとトップを飾っていた。



え・佐藤 ひろみ

ある。私はインタイピストで、おまのきな気分になつて言えは、私にもいらない！に賛成だ、あんな気持ちの悪い建物はない。しかし聞くところによ、よと現在のニッポンの消費生

要として、どの程度の現実を見ず（浪費はしますが）原発はいらない、といふことを大声で言っている。スタントマンにすぎない。その週刊誌に「原発は安全で、もう原発なんかいらぬ」といふ文句は、もう私たちが無難な消費生活はいたしませばか抱えているわけですか。

間にかそのような虚偽が知らず知らずのうちに植えつけられていたのだ。こわい。そこにあるのが、あれが虚偽であるといふの証明されたのは、だれもが知っているように、このコトが来て、全国で電力需要に対して発電設備が過剰になっておき、原発でも出力調整が必要が出てきた。このことがあつたことになつた。その低出力での実験の過程で、チェルノブイリが事故を起こしたことを今日ではよく知られている。

（約三十一）
●絵本講座
15日午前10時
市立治通橋の
階で、絵本作家
を、絵本「ほん
つすま」の
トワイニング
来るまで、エ
に、ペンギン社
が話す。同時に
も。無料。申し
74-241